

## 第1回農林水産統計の広報・公表及び利活用の改善に関するアドバイザリーグループ懇談会議事概要

1 日 時：平成17年3月29日（火）10:00～12:00

2 場 所：農林水産省統計部第1会議室

3 出席者：委員 安倍澄子、北村泰亮、古賀雅隆、西村良平、野村一正、  
藤井喜継、舟岡史雄、細谷章  
有識者 合瀬宏毅  
大臣官房統計部 統計部長、統計企画課長 他

4 議 事：

- (1) 農林水産統計の広報・公表及び利活用の改善に関するアドバイザリーグループ懇談会の進め方について
- (2) 農林水産統計の広報・公表及び利活用の改善について

5 議事概要

事務局から農林水産統計の広報・公表及び利活用の改善等について説明し、委員等からフリートーキングにより幅広く意見を求めた。

（発言要旨）

統計部で公表・提供している統計結果、分析結果などについて、誰のための何のための統計かということをきちんとしていくことが必要。

行政側として広報戦略を立てて、ターゲットを明確にすることが必要。

消費者の視線から見た場合、農林水産省統計は使いにくい。情報というものを誰のためにどんな形で提供していくかというコンセプトをきちんと議論することが必要。国民にいろいろな形で広く利用されるということと政策的な利用のミスマッチがある中で、情報をどんな形で提供していくか、ペーパーかITかで違ってくるのかも知れないので、この点に関して整理が必要。

公共財としての活用を図る場合、誰の利用を考えるかということを確認するとともに、様々な統計利用者のニーズに対応する形で内容なり媒体を違えて、提供することも必要。

多方面から農林水産統計に対するニーズをどうやって掘り起こすかということも重要な視点。ユーザーがどんなキーワードで情報をほしがっているのか等についてIT技術を活用してニーズを探ることができないか。

ユーザーが自分のものとして使える統計とするためには、統計の数値とユーザーとを結ぶ媒介項があると便利。

提供する内容について、農林業の多面的機能といいながら、いろいろな面からの情報提供を行う仕組みとなっていない。農林水産省のデータだけでなく、他省庁の関連するデータも取り入れて、ユーザーが本当に使いやすくニーズがある情報を提供すればいい。

統計データを数字の羅列ではなく、どう読み解くかという観点での対応があると良い。ほしい情報がどこにあるのかを教えてくれる人、教えてくれるページ、目次みたいなものがあると良い。また、統計データを分析して読み物として見せてくれる人、おもしろい読み方として発信できる人がいると良い。

分析には、今後力を入れてほしい。その際、政策研究所等の統計部以外の部署とも連携、さらには他省庁との枠を取り払いながら進めると良い。

農林水産省ホームページの統計は見やすくできていると思う。「わがマチわがムラ」などは、地図をクリックすると市町村が出てきて非常に細かく見やすく、グラフもありエンドユーザーが簡単に使えるように考えている。逆にそれだけのコストをかけているが、見る人とマッチしているのが重要。

ホームページに役立つ情報があるということがわかったが、誰が何のために使うのかということ各ページで位置付けることは必要。また、ユーザーの立場に立って、縦割りの部局の構成とは別に提供できるようになれば、利用範囲が拡大する。

「わがマチわがムラ」は、重宝しているが、初めはホームページのどこにあるのか分からなかった。また、市町村間の比較などができると良い。

メルマガ等様々な媒体を通して情報提供を行い、農林水産統計のファンを増やすことも重要。

アクセスログを解析して、ユーザーの入り方、ニーズを把握していくことが必要。

ホームページについて、現在どのような人がユーザーとなっていて、今後、新たにどのようなユーザーを取り込みたいと考えているのか明確にしてもらいたい。

等の意見が出された。

座長からは、本日の意見について事務局で一定の整理をし、次回以降の議論に反映させていただきたいとの発言があり、これを受け事務局は、具体的な改善方向について個別事項を検討する際に提示していくこととした。